

## The fashions of London & Paris

(ザ・ファッション・オブ・ロンドン&パリ)

London : Printed for R. Phillips , 1798—1809

Hiler p.306 Colas 1042

本誌の最初のプレートは1798年3月に出されている。初めは月3枚のファッションプレートが継続的に販売されていたらしく、プレートには配本番号があり、のちにこの配本番号順に3年単位で製本されたものとみられる。

第1巻の冒頭に「現下のロンドンとパリで流行している最もファッションナブルな婦人服を集めて記録した。本誌の特徴は、おしゃれをして集まる舞踏会や園遊会、それに貴婦人たちが出入りする宮廷やサロンで着用されたドレスを披露した」とある。各号3枚のプレートのうち、2枚はロンドン、1枚はパリのファッションで、初期のものの中には「*Journal des dames et des modes*」から採録した、当時著名なハミルトン嬢やレカミエ夫人の姿も見られる。ページを繰っていると、「第1巻の、3年間37回の配本分を美装製本したものを3ポンドで販売する」など自誌の広告をたびたび載せている。

本誌は1798年からほぼ10年間刊行されたが、この期間はモード史上極めて重要で興味深い時代であった。イギリスでは産業革命により市民階級が台頭し、近代化へのさまざまな変革がもたらされた。衣装のシルエットにおいても、変化は顕著に現われ、豪華な衣装から簡素なものへと様式を変えていく。それは身体にそった筒型のドレスで、シュミーズドレスと呼ばれた。自然でゆったりとした古代風の衣装が再現される。フランスにおいてもこのシュミーズドレスは新しい服として貴婦人の中で人気を得る。イギリスと同様に織物工業の技術的進歩により薄地の布が生産されるようになり、薄いモスリンやチュールなど軽く柔らかい布地が用いられた。

1800年を過ぎると、ナポレオン治世の繁栄のもとで、単調な衣装に加えて装飾用のスカートなどが流行し、しだいにまた華やかな衣装へと逆流する。羽毛やリボンで飾った帽子や髪飾り、宝石をちりばめた腕輪や首飾りなどのアクセサリ、レースやカシミアのショールが愛好され、衣装の引立て役として重要な装飾品となる。

本館所蔵のものは4巻から成り、各巻は以下の収録となっている。

1巻：1798年3月—1801年2月（1798—1800）、2巻：1801年3月—1804年2月（1801—1803）、

3巻：1804年3月—1806年2月（1804—1806）、4巻：1807年2月—1809年12月（標題紙なし）。

括弧内の年代は標題紙と背にある年代であるが、実際の収録年とは多少ずれが見られる（注・背のタイトルは“*Costume of ladies of England*”）。『Colas』および『Hiler』の目録では、創刊は本館のものと同年であるが、全3巻、最終収録は1806年までとなっており、1807年からは『*Records of fashion, and court elegance*』に継承されると記されている。また、V. Holland著『*Hand coloured fashion plates 1770 to 1899*』のなかでも同様の記述が見られる。こうしてみると、本館の4巻目は希少なものはなかろうか。この4巻には標題紙はなく、解説編も1から3巻までは製本の前頭部にまとめられているが、この巻は末尾に、しかも粗悪紙で付載されている。しかし本文には各号明確に“*Fashion of*

London & Paris”とあり、本誌に間違いはない。本館は幸いにも前述の『Records of fashion』も所蔵しており、4巻目は別冊の形で刊行されたのではないと思われる。 (平井紀子)

『文化女子大学図書館蔵 西洋服飾ブック・コレクション』より修正して転載



第1巻の扉